

答申書（素案）

1 総括的事項

- （１）当該事業は、世界最大級のバイオマス発電所の建設計画であり、地球温暖化対策に寄与するものとするが、工事の実施や施設の稼働に伴う環境への影響が懸念される。環境影響評価の実施にあたっては、関係地域を含めた周辺地域の環境について適切な調査・予測及び評価を行うとともに、必要な環境保全措置についても検討すること。
- （２）当該事業の実施にあたっては、事業の影響を受ける関係地域の住民へ丁寧な説明を行うこと。また、準備書の作成にあたっては、調査・予測及び評価の過程について詳細に示し、文章や図の作成、用語の使用について工夫することで、わかりやすい図書となるよう留意すること。 【資料 2－No. 7】
- （３）同時期に事業実施想定区域周辺で、他事業者によるバイオマス発電施設の建設や、火力発電所の更新が予定されているため、可能な限り情報収集等を行うことで、複合的な影響についての予測・評価を行うよう努めること。 【資料 2－No. 10】
- （４）環境影響評価の実施において、環境への影響に関し新たな事実が判明した場合は、必要に応じて選定した項目及び手法を見直し、調査・予測及び評価を行うこと。

2 個別事項

（１）燃料について

準備書においては、バイオマス燃料について、調達先における環境配慮の内容や製造・運搬方法などの詳細を具体的に記載すること。 【資料 2－No. 1、2】

（２）水環境について

温排水による海域の温度変化、取放水の流動に伴う海水の移動等を踏まえて適切に調査・予測及び評価を行い、環境への影響が可能な範囲で回避・低減されるよう、必要な環境保全措置を検討すること。 【資料２－No. ８、 ９】

（３）動物について

現地調査を適切に実施し、その結果重要な種の生息が確認された場合は、環境への影響が可能な範囲で回避・低減されるよう、必要な環境保全措置を検討すること。

【資料２－No. ６】

（４）廃棄物について

事業に伴い発生する廃棄物は有効利用に努めるとともに、発生量や処理計画等について、準備書において具体的に示すこと。 【資料２－No. 12】